

唄

三味線

囃子

初世 杵屋正六 原作
四世 杵屋三郎助 添削

浦島

杵屋彌十代
杵屋彌十代
杵屋彌十代
杵屋彌十代

杵屋彌十季
杵屋彌十季
杵屋彌十季
杵屋彌十季

二世 杵屋勝三郎 作曲

勝三郎連獅子

杵屋巳貴和
杵屋巳貴和
杵屋巳貴和
杵屋巳貴和

杵屋巳陽織
杵屋巳陽織
杵屋巳陽織
杵屋巳陽織

小鼓 福原千鶴
小鼓 福原千鶴
大鼓 梅貴巴
太鼓 梅貴巴

華鶴美音巴

四世 杵屋三郎助 作曲

傀儡師

杵屋喜三春
杵屋喜三春
杵屋喜三春
杵屋喜三春

杵屋喜之佐
杵屋喜之佐
杵屋喜之佐
杵屋喜之佐

小鼓 福原千鶴
小鼓 福原千鶴
大鼓 梅貴巴
太鼓 梅貴巴

海津勝一郎 作詞
中島勝祐 作曲
初世 藤舎呂雪 作調

松竹梅

岡安喜代蘭
岡安喜代蘭
岡安喜代蘭
岡安喜代蘭

岡安勝之緒
岡安勝之緒
岡安勝之緒
岡安勝之緒

小鼓 鳳聲千晴
小鼓 鳳聲千晴
大鼓 梅屋太津
太鼓 梅屋太津

晴津之巴

初世 鳥羽屋三右衛門 作曲

狂獅子

杵屋勝彦郎
杵屋勝彦郎
杵屋勝彦郎
杵屋勝彦郎

杵屋高橋智久
杵屋高橋智久
杵屋高橋智久
杵屋高橋智久

小鼓 藤舎清生
小鼓 藤舎清生
大鼓 藤舎清生
太鼓 藤舎清生

生穂音帆

二世 杵屋勝三郎 作曲

靱猿

東音圓井英子
東音志村かしわ
東音河合夏奈子
東音竹内あき

東音永江倭子
東音秀島いづみ
東音滝沢里花
東音植松美名

小鼓 藤舎清生
小鼓 藤舎清生
大鼓 藤舎清生
太鼓 藤舎清生

生穂音帆

十世 杵屋六左衛門 作曲

巽八景

杵家弥江道
杵家弥江道
杵家弥江道
杵家弥江道

杵家陽七比古
杵家陽七比古
杵家陽七比古
杵家陽七比古

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 藤舎千宏
太鼓 藤舎千宏

子薫穂巴

五世 杵屋勘五郎 作曲

都の錦

杵屋響亜以
杵屋響亜以
杵屋響亜以
杵屋響亜以

杵屋和五三
杵屋和五三
杵屋和五三
杵屋和五三

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 藤舎千宏
太鼓 藤舎千宏

子薫穂巴

高橋箒庵 作詞
二世 稀音家浄観 作曲

松の寿

貴音康花
貴音康花
貴音康花
貴音康花

貴音聖葉
貴音聖葉
貴音聖葉
貴音聖葉

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 藤舎千宏
太鼓 藤舎千宏

葉陽

十世 杵屋六左衛門 作曲

男舞

芳村伊有紀
芳村伊有紀
芳村伊有紀
芳村伊有紀

杵屋栄日保
杵屋栄日保
杵屋栄日保
杵屋栄日保

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 望月越子
太鼓 望月越子

子美三代

四世 杵屋六三郎 作曲

蓬菜

杵屋六三郎
杵屋六三郎
杵屋六三郎
杵屋六三郎

杵屋六太郎
杵屋六太郎
杵屋六太郎
杵屋六太郎

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 望月越子
太鼓 望月越子

彦

伊藤鷗二 作詞
四世 杵屋吉 作曲

雨乞其角

杵屋勝幸正
杵屋勝幸正
杵屋勝幸正
杵屋勝幸正

杵屋忠史吉
杵屋忠史吉
杵屋忠史吉
杵屋忠史吉

小鼓 福原洋子
小鼓 福原洋子
大鼓 望月越子
太鼓 望月越子

彦

国立劇場に想う〈座談会〉

昭和四十一年、日本初の国立劇場として開場以来、五十余年。長唄協会は春季、夏季、秋季として、年三回定期演奏会を開催して参りました。多くの演奏家にとつて、国立劇場は格別な存在であり、協会演奏会のみならず、各々、語り尽くせぬ想いがある場所です。今年十月いっぱいまで閉場、建て替えとなりますので、本日の秋季演奏会が、初代国立劇場での最後の演奏会となります。この時間は、開場当時から御出演の演奏家の方々にお話を伺います。

長唄協会会長

芳村伊十郎

長唄協会有名譽顧問

鳥羽屋里長

望月越子

福原洋子

一人椀久

松崎佳倫

佳倫

東音植松美名

作者不詳

